



遠13
978
卷 6

本清

卷之六

鰐滿寺在山州
久世郡一民有
蛇含頭父憐不
意曰汝捨蛇為
畜言下吐蛇去
初夜蛇衣冠來
女見入屏室忿
恨復本形纏室
半夜聞悲鳴明
且見之蟹數十
手足亂離蛇又
被瘡百餘所并
死女開室顏色
不變父大悅寒
土埋葬及蛇
營寺号鰐滿寺



矢田部漢志和



おもて

小野篁八十嶋かけ巻之五

第十四回 ひ乃はらま

轉説頃へ嵯峨帝弘仁十一年せとくしが山城國相良郡綺田村
の豪祖量三右衛門といふ原義うる老夫あり妻ハすごけり孤娘女阿
賤とりふか。加采木のじく鍾愛也。七歳より普門品誦し。數月也
く法華經全部以慣ひ。記るほど才女めで殊に嫁よ生長。みを
破風すがようげふ仁慈ぬくて柔軟もとべ。促四方知音嫁にたり。わ
婚ふうくんとりひ婢もと。駄車馬車もみもそこと汝さどちきり。或日阿賊子
鬟つゝく。免道平等院ふまふにしかへる。橋のあゆきに村童五七個集
大さやううれ螃蟹兩頭河邊みく。捉捕。勤々居たれを胸脇其蟹
を購ひ。扶ことあり。又父三右衛門は序辺すく蛇の蝦蟆をのまんと

せじゆそく。晉にさんとひて蛇が退うせ。臺へたナケトロバ。蛇人よ化あり
と本形ゆあし。女の居間に巻か那枝も。蟹もや。験ありて蛇が蟹あ
候し。蟹も蛇に斃されつ。女へ常め觀世音が信せしゆふも。障導みゆり
一といふ。サムク言廣くられば。審みは書もとらん。さしを蛇の死心をおろ候
く。又亮放蟹比恩が酬ひ。も醜罕ゆ。領て菩薩の靈験も灼く。旁
りゆく不測の因縁と感る漢りみからけり。さてしも御黨あつまつて地
三間四方に穿ち。如干れ傍及蛇が埋没する。而してのうち夜。三右衛門子を夏
道服若く的告をりふす。我ハ足下に毗く坐たる蝦蟇タリ。命の恩
小報ひゆる。なほん。アリミコソ。御祝す。されば來十八日に平安清水
寺へ参詣。より好良人君かえぬか。さきゆ。がく。と。魚情。りふ。と。諱。と。云
てきく。セ。胡捷て起と。夢譚。ひよか。の賤も一處た。のり。まみく。されば。

歎喜差嘆して。さうくとも観世音公拜すんと。勿かや下る也。ハ夏乃
告ゆる日ふきつゝ。三右衛門阿殘侍婢奴僕などをもつて。清水寺へ
詣佛前にたゞく最懇懃に額附突田禮拜して。板懇はく名にねふ應
泉比邊。まづ拜をうゆ。ハ楊柳水が敷して。之が園。實櫻色紅して
ひゆく。愛す。音羽の峯。ハ皂もつる。またに茂る。蜩の声ハ羅び徹て
涼し。はと蓮池鶴。鶴こて。色鮮白。白れ麗。と。壯觀比希。よし。地主の社
將軍堂。よど駕。叩首に參詣。おうとあうか。生バ。品應。幣。ものと。りふを
あひ。ひよく。と。傷生。おけ。と。徐く。と。徘徊。と。儀。後。貴。老。若。川。男女。
群族。うて。驚躁。と。え。何。す。み。う。は。と。帝王。祭地。御堂への幸。臨。うり
と。こ。ふ。う。が。と。こ。ふ。こ。せ。歩行壯。公。お。と。あ。ら。ん。り。む。と。御路筋
の。う。う。に。衆。入。の。う。う。ふ。ま。と。う。地。よ。平。臥。蹲。跪。て。今。や。く。と。候。居。う。

あづまくもれべ。軒々。露はるひの下吏。黙々。黙々罵て、すう禮す。すう
制はる。間もあらずせど先駆より。魏堂と列べ不混金蓋朱旗赫耀
わざわざ善美城はれて言語道筋脚鳥輦は駕輿下ハ路幅狭。こたつ
もとがりとふ亞み。女御の召とくみや。拵櫛毛は車に。端襖芳の下簾。
色最濃ふ。綱代車も大路小賤されば渾的感涙縱あひど。志をふ鹿向塚の
わざりゆく。其日は執事大技總成卿。脚鳥輦迹く召と。何事かん勅詔の旨
の辯義)。てあらぞとみうどけ御座へ成院ふすとけく。うのよれ諸卿
おのづ塔頭へ入りべ躬く行列も果々紗吏官白丁们ありて。三右衛門父子
ふりやす。大技朝臣總成卿。やすことあとべ脚宿坊真光院へまじ。三右衛
きておほきにふどろき。慘不意ある。僕とす。相良郡の農民も。犯
せよ。轍更よ見し。まくとみづ足弱は同侶てさすぬま。召擧あふ明

みを御殿ひでんすゆゑがすよとひいすく。女の掌はせを失去ん
とく。官人押止罪あざな明りふ司くわはおをもじ。運送うんそうそとみもあじか。召つて
往むかされば我儕わたくしの不念ふねんさればとあるがちふ率りつ左さ不ふ争そ無理むり有理あり。竟
にあまほへどもとひけふ。みるく徒惶懾たゞれ。まつ一室いとまへ請ねト入られく。
外人の管待くわんたいすわあとされど。傍わきからままたるを地ぢと寧なま緩ゆる慮り。清きよ
有あて難むずきよたらひと。御膳持ごぜん持もち斐ひと出だされば。何なんすうかとせりふ。既き
奴婢ぬしふよご居暇ゐひてせら。冷嘲れいじょうとびとありけまつ。忘わすめ。遠とおひよろうるめ。急いそ豪ごう達だつひよろうるめ。まや
詔てし誥こく講こうの御款待ごくわんたいひよふの御用ごゆうにまよふ。業わざりよては一箸いっしょも喉のどを通とぐ
くもほし。怡いびすとたゞたゞ。安堵あんとて疾給せききよ。轉進てんしんト取とりに否うか。てて。階はしるくを奪だつる
け。家司いえし視持し出だ。三右さんご房ぼうにむく。筆記ひじき。親おやの素性そせい女め

の年紀無屬比名前。住所の地頭の名及び家内。暮一方までさふれと
考略漏書認てきてりゆ。女阿賤は御用の手渡し。また方同宿にし
て御大技比御殿へまわる。かうじん配をめことするはあらん。とて弾文
の如く勝手にかつてをりひにしきそれば敗れ動氣をさせりて。何事
クハせんたてまつねど。おウセふちうぢ明朝尼はと參殿そどと。暇
ゆつをかきりけも。叔約諾のどとく三右衛門入子翌日とくく平安が登
大技比御殿へまわし。いと丁寧。又く歎待みく。漸あゆく吏官教導。對
客の間父子的は諸ど入艶て總成卿出で。置も凹ばきに額付居れ
卿おほせり。相良郡綺田村比百姓三右衛門。いすめの賤とく安門よ
ぬ。其方所在の還迹に。まか監察使遣して。女拾ひ子を縛も鷲と
糺明置く。なり。さてまく櫻ふ蟹と蛇との怪異ありし縛まる巨細々

ナリ。さればみどろみほど不思議の靈巣が紫玉の入。疇昔ふるのに清
水寺へ御幸あらせぬひへと。おま御輦の裡。其阿賤が廬覽
して入内致。こゝ勞うて敕命。するから乃之。上御の命婦に仕せり
新ノ条裏で并受り。とへとて。扈從よりつゞきせあふ経井のひ
とく。蟬の羽より。戎。雅。色の衣。も安排て。怎へかく。ゆる
言證ふとく。被あひ。傍け。先帰宅。猶明鳥たゞ館へ再び。そ
あひ。と。仰。おちく。父子の駆き。たゞ。呆よ。呆よ。果。對。顔。視。つ。平。臥
しう。おせぐはくはく。底。三右衛門。詮。で。や。す。這。冥。加。恐。と。御
う。草。脳。云。月。比。不。束。う。女。恐。こ。く。帝。君。比。御。目。に。渴。と。サ
又。と。う。と。僕。侍。う。う。人。御。の。駕。と。庇。惠。今。更。辞。退。仕。ま。り。了
を。と。通。理。あ。く。ね。老。の。ゆ。く。す。木。柱。御。ち。の。上。へ。ま。と。し。よ。及。ば。



臣すらが衆青霞云々歸。僕が音氏置候御推察べと目ふ鹽く
鼻打拭て躊躇卿おもむきかくよく汝うがや条も空からきど返かへふ。倫
言いそぞん天命の奇縁非の冥慮めいりよ。人間じんげんへ商しょうて得と。辨別
て廢わきに寄よらば。諭しるべ三右みぎつ持もつ黙頭だまてんふえ。現不可思議こころなしの事
そくうれ。兔角うづきあをひへ躬躬勝年とねり。一天の主上の命。違背たがひや。そ
罪深きゆうし。令小隨おほせひめらハ御館ごくらんへ召めざ候參殿さんでんつまま門もんと領掌りゆうじやうして
出で立た板いたと翌日あさつ女めは保ほく。奴族やつぞく蠶せん。知已ちいれか。まう暇まつま
付つけ告而おほせて大枝おほえの脚館けくらんへすかう。殿どの拵そなへしてやす。宣せんや旨の龜かめ。淫お業わざ
に遇あひ。優曇雲ゆだんくもの華はなに春はるのすく。凡慮ふりよハ更またにえがこと縁えん召めざしてこま
へ。心こころすくよき良よき。小願こがねたてよつと。有難疾盈あつやすじよ。卿きみも其その諱朴こづひ
タたく。憐あわれみゆひ必ひしも。女めのことをよ。案あわせト。屈く懷なつかし。ふすまう内うちク語ご。

小留こど先教誨せうぎよ。その種たねくあり。宮詞舉止。何角くわく。覺悟くわく。そくひてのう。
猶よ々よ識式格しきしき。老女おとめが副そばて内うちへもうう進すすせん。又命婦めいふみそひをあ
がまこととあぐあぐたた館たてへまくまく。最急さいき散さん。ナサなまひて、三方さんぽうつぶかく
一ひとも。三さんを落おちつはああ舍すみ。帰か。熟じくよよひらひら。阿賤おぜん。迹あと。傳罕とがま
うう。緯うう。緯うう。昇あが。得と。云い。見み。懷絕くわいぜつ。然爲我たゞ二に老おの便びんと渠くわ
て。孤こ姫ひめ。不早晚ふそん。まく。たゞ。逢まつ。有あとも。親おやト。かかねね。老おち。躬躬と
基き。廢ひきせん。無む為めと。搔口說かきくち。泣な頬ほ。りよへ還かへぬ諄言うう。叔おまま
嚮むか。我過おと。い。涙卒なまく。こと。がく。度たど。多おお虫むしの命めい。隕おちさせ。うの卫え蟹かに
そく。恩おん。ひ。ち。く。女めを。弱よけ。養いくも。よ。命めいに。報ほうひ。く。受うけ。告ご。儂うな。憲かん。卿きみ
みみ。じ。と。怨お成せい。卿きみの恩おん。公こう報ほうる。術じゆ。ち。ぐ。虫むしの命めい。隕おちさせ。うの卫え蟹かに
卿きみの。也。く。す。ふ。と。く。奇き縁えん也。く。那裏陵なり。陵りやう。伯道はくとう。子こ。公こう。齊さい。郎ろう。

的。しのけど、德及義也。名を遺して、儀をすく。遺んまほも、幸く。世を遣んとむじ。誓田の半分、舞ふ男へ、舍部が壞撤ぐの蛇及蟹。埋没す。ところに、宇の梵刹が建立し、榜屋が満ちるゆゑ、廢りて、蟹闌寺と号す。自ら刺髮懲净場よ。すこ、深の袖を作徳也。半分有於乃至、禁裏す。庄園は、許多たまひをもつて。最も豊饒か世をもとめり。うも又此阿賤のゆきを名。奥を解説せ、視たまひね。譚轉於茲。されば、這辺を統て、方百町北。田地が領せ。地頭は、這崎田を、寔宗北三院を、行法寺とも。百姓四個村。左蟹浦寺。此代未曉。四固村とは。在蟹浦寺。傳田是也。外川勝目より。ちくわは山科殿の家司。守熊が下吏原の粗七。今の名ハ波門。とのつりのあらそん。鷹目村の里正が宅へ來る。又三個村の里正がも呼寄。彈正臺より。凡令と偽ア。四個の里正が令命をも。這般容子あり。今近行法寺は領地。方百町が山科家の家司紀守能の讓。

あらう。依之年貢を這あられど、ありやうて。以来のす能が方の収納をもとの脚縛をも。あらう違背も、承知のゆ。汝们四個とも。證の印が持あらうでもある。とぞやけ。里正傳怡驚。そら不意くもかくぬのう。あらう。行法寺ても對詮のう。證印は、まつぶぜとまます。波門大の怒を上より仰げ。猶豫も、ぶどうらわうと。白眼は、まほり。里正ども。まあが明日あら骨をむか。四個とも、倡侶して、御館す。う。證印仕事も、んとりあみ。扱ひ、汝们某が疑ひ、危踏。即令證印が否む。某上へりひりも。因て、汝もが討捐も。覺悟ひくと。白又曳拔威陵係。さすが農民怖がはしてかと。不肖これ。里正ども。違脊も。美諾。う。證の落歎。それば、波門が駕とあらままで。某の彈正臺みく波門も。よ。述るあり。境目等がもあらためん。又まとも。余あらば。某追訴出よ。

つよひく。ソヒトにしてかかつらう。徑より正ども行法寺へあらへる。密室
ヤケミ。住僧陥然不ふむ。どうも。ひうふやるの事すれど。忽平安子
のやう。山科家ゆき守熊よ遇。委鋪たづねんす。ふ終日玄関を
後せわき。守熊の御用ありとく。逢ざき。せむる。肺過。寺にかつ。
さて日ひ暮ゆてかよふよ。さふら他虫ともひまひ不快。夕ノ如きひして。兔の角
遇。けめ。稽然。宍ふ僕累。エヌが疑。主計寮。主税寮。など。那邊。這邊
べ。巨細覗て。事ハ証明。彈正廳。仰。と。詭矯。實。ハ。守熊。が。追領せん
との討畠。貯察奉に。聆認。けめ。趨。と。訟牒。ハ。書て。つ。累代。貧道。グ。領せ
し。田地。守熊。が。追領せん。と。し。あ。脚。証明。ハ。聾。と。と。彈正臺。に。し。も。と。
あ。う。が。波門。は。守熊。の。下吏。ふ。在。お。ず。彈正臺。北歩跡。も。兼常市。し。そ
勒。か。じ。ゆ。名。陥然。ハ。波門。が。未。知。じ。て。が。の。訟牒。の。経。竹。ハ。覺。せ。れ。

波門這くわん文ふみ読くわんる。明後日出でまちだびととりひてかへ。其証牒あてしやくを密ひそかに守まつ能めいふもせけまご。守館まもだ黙だま頭かしらて引裂ひきはり弃き。あくたふ手自ま偽うそ謀ぼう証あて狀じやうを認おもす。波門くわんにワヒして彈正墓たんじょうへ進覽しんらんあり。昔むかに彈正大弼たんじょう藤原常嗣とうげん。這証狀あわせをふ。山城國やま相良郡さうらう綺田村行法寺住僧ぎだいそく陷おち。這黎掩あわく。旱魃ひれき也。日經ひ。經へふけま。萬民まんみんの歎かなきみまふ志しのまど。幽家ゆうけいの為ために雨あめ。禱とうらま。向むか廳へい前まへにれり。詔てし修しゆ。自まら火定ひじやうに入い焚ほき。雨あめ降ふ。居多まことにの武たけ。苦くるに代かわらんと念ねん。御赦ごしゃ。冀こころむ。仕つかふ事こと。件くだり。書かくく。もううちれ。常嗣卿じょうしの倭曲しづくをまども。ざすが。惻隱そくひん無なふ。あくねが。か。証あて。殆感たんかん。じゆひ。扳指揮ばんしの日ひに。すう。しげ。陷おち蒸むな廳へいに。あつて下しも知しをます。常嗣卿じょうしのます。願ねがひ。趣委細ききに。聽き届とどく。あく。波門くわん傷いた。あり。陷おち然ぜんふ言教ごんこう。い。波門くわん外ほか。

身に一々。陥然の守熊が裁許ひふとらひをばく。廳前城退院門
前つづでされば。何るやうん柴薪新火通衢におどりしく積て火消囃
えり。這怪しげだと思ふ。忽數十人比獄史もいて。陥然に言ふも費せ
し。挈昇て那木もと燃え内裡へ入んといひ。位呼が火も厭ひこそ。竟火大
中に投入する。陷入とも燒火裡何の苦もろく焼減す。呼嗟悼きし陥然。
其名。自業とも云う。又守熊の愚毒は毋ふ怖れまゝ奸賊ありあし

第十五回 やまと北井

却説小野岑守卿。全皇君下野に四春秋の住處て既ふ歸洛を促す。あ
れ這よりまた松人幸記足利の御館へまことに淹々めく送の壯健候。まへ候
りまして松人度でやう。長の諸居御劍。ゆうべく負量らばも。故卿奉
てゆくらむ。八盜賊の阿露路を發す。其賊がまく下官が弑て得も劍の

邊處賊へ却て這婢が實子馬六うとれこと。跟と前とを把旗て一五十六
ヤ上。さて這母ハ唯獨躬せ仕術うそを假て傍へ墓所ゆく。鎌針の業成も
仰下さと。無和理観入をとべ。西卿始末死ゆるひ。功勲以賞しまく母の
不意。死悼ゆるひ三十日も五十日もたちてしが。母ハ歎ふ向も々く。侯樂
みー兄弟也。時に亡き氣力も。風と病着を松人ハ孝心つじて介抱
き。が。美饅も針も不利て。竟々寂滅す。しき。足利公華とて。松人ハ
眞實小黒七日も。漸満う松西卿ハ。足利公華足りぬひ。松人も供奉
旅の客舍。めー暮してほどもなく。平安にうつつき。へばまぐ。參内あらひ
え。帰洛公華ー。なまく。敵慮殊不うちへく。下野。あく民を撫育。新よ
学校立まとけ。未学のりの仁義に教導。一条疾よう。聲聞不達
やまと。輦敷勅詔蒙く。内裡以下。歸館ありけ。されば小野の家

みは神の上清杏君成はりて國家の博ひ大既うべ。那辞賀もも制
くらま。さて、皇君ハ二十一歳にありて、于に倭漢の史に貫通へる。緯。廣慮に
協ひたまひ。又、這般朝散大夫文章博士ふ叔せんれを。文章とし史記
漢書以下諸家の書傳をうび。詩文ばも読講がどり。義博士とも博き。知
識しゆふ。美う。帝に脚前も侍參じて。明經議論に重き職を。唐
名に這般翰林学士と。翰公筆に。文藻比之。翰林の若と。翰林学
士と。りよす。後漢に戴張明經小舉せらる。這其職の初效。又大技袋成
卿の女清香前。皇君との婚禮也。這般の歸路。脅骨もひされば。黃道吉
日。成擇も。往ゆる。かく整ひて。佳悦れ種に男と。親族血屬集まる。
千代万世と。いひ。壽ぐ。生涯は。姦に。怪義。あら。夜更て。皇室
の寢殿。松の上下。燐火。女姿れ。現の。ゆく。形見。君の枕。双逐。

く。汝に何傳うら。がくと。ひき。みかの女。
く。りうび。れ。うら。まがみ。と。目ふ。うら。を。あを。うまれを
と。歩。參。り。く。涙。が。落。く。お。卿。も。み。と。お。と。り。ん。妻。ハ。下。野。の。利。倉。も。く。卿。に。命
城。門。う。見。よ。あ。う。じ。あ。と。あ。と。せ。う。の。ふ。み。く。ね。う。の。そ。の。嬉。一。き。卿。の。貴。容
り。と。見。が。く。戀。あ。ゆ。く。せ。も。り。ひ。よ。う。す。く。焦。急。と。死。と。れ。ば。あ。から
ち。う。を。る。劍。の。山。雲。階。騰。と。明。察。と。も。操。小。手。奉。け。輪。回。の。業。今。に。う。か。ま。ね
奈。落。迦。の。日。鼎。他。目。に。そ。え。ね。と。夜。日。と。る。く。貴。體。公。襪。と。う。り。と。謫。て。可。念
と。覽。せ。と。完。松。忌。き。敷。う。散。う。草。皇。君。の。く。ま。る。く。這。ゆ。う。る。く。苦。哀。る
べ。う。う。ゆ。う。れ。そ。ん。陽。卑。か。妄。的。欲。這。に。う。い。も。千。年。け。院。維。尼。此
經。文。以。卑。ん。ま。成。佛。努。よ。と。あ。り。け。と。バ。女。ハ。櫻。と。壠。戴。を。佑。形。勢。し。ま
り。よ。う。寂。貞。べ。う。御。う。と。く。ま。た。て。ま。う。う。う。ま。う。稍。煩。惱。付。雲



齊川。又陀羅尼の功力によりて。今ぞ等覺得脱の不退轉位より外あり。されば卿は貴人慮備誌とよまうるん恐くも。朝廷に傾んと誤漢。潜くく結講を。そもそも正良皇子今ハ五十二代皇帝第一の皇子されども平十三年二品にておほしに。比寵愛ハシタリ。御膳司ハシタリ。王室といへる女房少将蕃像。藤原常嗣。又山科大臣殿。公毒殺アマツキ。執事紀守熊。の御内の廄舍人。前の名ハ祖七。今は波門。とりて的を。ふり。人ばら。傳に。かづ。い。も。卿賢慮公不聞。多く。君聰め。ひ忠。ふみ。どうた。が。い。ま。そ。な。だ。さん。こ。あ。く。す。た。だ。掌公翁。セ西のそくへとまくそもうけ。皇君ハ不便のことにれば。一て。次。み。あ。

山科乎の。あく。あく。ぬ。に。経。ば。う。れ。し。人の。ま。よ。ん。苛。哀。り。の。と。わ。り。や。一。て。已。靈。鷲。よ。吊。ゆ。用。詔。還。說。松。人。ハ。脚。劍。は。す。

の。苛。急。曾。君。は。前。ふ。止。さ。れ。る。も。や。止。ど。く。今。山。科。家。は。虫。頭。守。熊。が。う。の。書。章。う。を。慥。な。證。据。先。方。に。遺。事。う。た。う。つ。疾。受。把。か。む。う。ん。と。り。の。は。曾。君。不。制。し。う。の。夫。口。客。易。そ。く。せ。す。と。だ。那。守。熊。と。て。く。ん。死。凡。史。に。未。識。り。の。が。縁。免。其。為。人。を。そ。く。に。原。藤。原。某。像。う。奥。別。よ。う。召。つ。と。の。や。是。匱。類。く。み。ら。山。科。家。へ。吹。舉。し。彼。家。に。仕。へ。順。次。小。歷。騰。至。竟。小。諸。大。夫。の。役。執。す。と。ま。く。殿。上。火。も。さ。せ。く。る。こ。多。あ。う。れ。ふ。山。科。前。左。府。公。薨。去。せ。ち。嫡。子。の。内。府。邦。方。公。迎。黎。矢。一。き。病。み。く。卒。薨。せ。し。れ。し。ば。食。人。訝。る。と。ま。く。殿。上。火。も。さ。せ。く。る。こ。守。族。は。る。す。所。掌。ア。非。義。非。道。ア。そ。他。の。領。地。伐。掠。奪。あ。と。す。る。而。一。そ。宋。よ。騎。奢。公。寃。免。燐。酒。に。耽。と。と。燐。舌。を。人。なり。と。う。か。そ。う。の。廐。舍。人。み。も。惡。搥。漢。仰。と。た。く。而。個。と。も。胡。亂。の。漢。う。り。され。ば。

剣のことを私の宿意ふ。休もう。朝廷のうちに礼明をとることあるほど。
悖^{あらざ}遂^そくへ脣^{りも}齧^{くち}歯^みの悔^{くや}あらん。我^わはまご若輩^{わがよ}ばかくおことて死^した
そぐを任^{うなづ}く。嘗^{とき}時^{とき}のいつれに候^{まつ}て。委曲^{まきまき}に穿議^{うりぎ}をへらまし。姫原^{ひめはら}
功^{いのち}を就^すそとらへば早卒^{はやまつ}と過^{すぎ}。喪^{むすび}せを生^うて。寛仁大度^{かど}に仰^ある松人^{まつじん}
駄^だ々^だ應^お端^{たん}免^{めん}が^かこまつ^{まつ}黙止^{まつし}う。這^{まつ}譚^{だん}且^{また}措^あくふゆう^{ふゆう}故^{ゆゑ}人^{ひと}藤原種^{とうばり}
忠^{ただ}卿^{けい}は次男^{じご}管^{かん}雄^{ゆう}卿^{けい}或^も日^ひ小^こ野^の家^{いえ}へ入^い来^らし。まひされば。岑^{いそ}守^{しゆ}卿^{けい}りであひ。
時^{とき}惟^いの寒^{さむ}暖^{ぬく}演^{えん}をくらむら。管^{かん}雄^{ゆう}卿^{けい}はくまゆうゆう。直^す作^な大^{だい}尹^{いん}矢^や田^た部^ぶ漢志^{かんし}
和^わ漢志^{かんし}和^わ君^{くわ}と在^{いた}陸^{りく}の前^{まへ}に加茂川^{かも}とく山田監物^{さんぶつ}の難^{なん}。貴^き官^{かん}も^も識^しら^る。
ぞくく、致^{いた}仕^えして令^いハ木端^{きは}どり。渾^{まろ}家^{いえ}はまくら大枝^{おほえだ}總成^{そうせい}卿^{けい}の婚^わ
と當^{とう}家^{いえ}比^ひ嫁^{よめ}名^な清^{きよ}香^{こう}の前^{まへ}。叔母^{おば}常^{じょう}陸^{りく}比^ひ前^{まへ}やうり。あうれに兩個^{ふた}比^ひ男^お
子^こありと。嫡^{おや}子^こハ矢^や田^た部^ぶ比^ひ其^{その}喪^{むすび}ハ嗣^{つぐ}て證^あ并^{とも}と名^なり。舍弟^{おと}父^{ちち}の名^な

不改^{ふか}。二代目^{じだいめ}比^ひ漢志^{かんし}和^わとゆか。されば年紀^{としふ}も美^{うつく}し。うのうへ當^{とう}家^{いえ}は重縁^{じゆえん}
されば。皇君^{こうきん}比^ひ婿^{むすめ}滋草^{しそう}どれ。澄^{すみ}兼^{かね}比^ひ舍弟^{おと}漢志^{かんし}和^わ。賭^{のべ}て妓^ぎ舟^{ふね}うづ。
究竟^{くわ}比^ひとくとくとお^おがゆれば。下官^{しわん}仲媒^{なかまゐ}つまはばんと。固^{たん}辞^{こと}ご
く^くく^く勸^{すす}め。岑^{いそ}守^{しゆ}卿^{けい}岑^{いそ}。こわよろ^くと縁^{えん}を^はじ。皇^{こう}御^{ごみ}あふも婿^{むすめ}
婚^{こん}を鞠^{くま}同一^{とういつ}年記^{ねんき}みてよと。荷擔^{はかせ}人^{ひと}。熟^{じゅく}と内^{うち}談^{はな}せよ。是^{これ}まふ
ら^はと。貌情^{めいじよう}をあつとよろこびて。うかうかとく。あはれてのう。當^{とう}家^{いえ}を
ら^はう。親屬^{しんぞく}を集^{あつ}會^わて。詮^じト^とそれば。好縁^{うぶん}とゆふふより。
とみふ熟^{じゅく}詮^じして吉辰^{よしじん}をえぐと。ひよ矢^や田^た部^ぶ比^ひ舍弟^{おと}漢志^{かんし}和^わ。
つゝ。滋草^{しそう}比^ひ婚^{こん}とゆ。婚禮^{こんれい}も首尾^{しゆび}充^{あつ}整^{せい}ひぬ。ひとよ^うと充^{あつ}證^あ。宮^{みや}
殿^{でん}樓閣^{ろうかく}比^ひ巧^{こう}。父^{ちち}木^き端^{はた}よおとく。名^な譽^よる。宇宙^{う字}ふ肩^{かた}比^ひ雙^{ふた}の男^おは。あう
あふこの舍弟^{おと}漢志^{かんし}和^わ。呂^ろ闇^{あん}細^{さい}微^びう。の波^{なみ}木^きと。刮^{かく}割^は機^き園^{えん}を籌^そ量^{りょう}

て。自然と働くかごくれたの巧を作ると妙手たり。這般小野家（みのや）の御品（おひで）はうちも五す討れ木偶兩個あり。老尉老婆姿（おじいさん）みく。簪儀（はいぎ）は翌日驥（きゆき）を益盤（ますばん）さうへよみの木偶と載（のせ）けまし。簾（れん）て両箇（りょうちく）は木偶腰より女細體（めうすいたい）の蝙蝠（ひつばく）把（つか）せて舞（まい）んとす。漢志和傍（かんしひがた）にあつて。掩（え）が枝（えだ）は唱哥（さうか）が唄（うた）ふ。千變萬化程（ちゆんまんかうじゆう）拍子節（ひやくし）。應（おう）じて翁（おきなわ）がさあきう。渾名（おのな）恩劇（おんげき）りて。ふ嗤（ち）動（どう）みぬ。そのうちも闲暇（げんか）るゝと。狗子（いぬこ）を巧刻（こうこく）きそ。夜怪（よけい）を覗（のぞ）てん乳発（るいはつ）す。あもしろ描（え）が能（のみやう）てん長押（ながたたき）を走（はし）る鼠（ねずみ）と捕（つか）せらす。屏風（びやうふ）拂活（はらはつ）ふがどにし。アの余他（よた）の望（のぞ）み隨意作（すいぎさく）と界（へつ）る。僕（わたくし）ふ足儀（あしぎ）はとどく。もはりたつ。却說又先年都遷（まつし）れ。桓武帝（けんぶてい）れ脚歸（あしもどり）依（え）は。一すや。喜福寺（きふくじ）は賢懷僧都（けんくわうそうと）。博學多才（はくがくたさい）す。されば。二町四方（にまちよんぱう）は境地（きょうじ）がゆ。賢懷公師（けんくわうこうし）に大学校（だいがくこう）を建（た）て。勸學院（けんがくいん）と号（くわ）し。人臣藤原姓（とうがくわせい）を肇（あ）して。諸家の士庶人（しじやうじん）。文蠻（ぶんばん）ごくつにしりよ。ちづれか今（いま）の師既（すこし）よ八十四歳（やし）をれども。顔色（がんしよく）

東北（とうほく）ごくく。通身巖重骨相（いわごろこくあい）。老軀（ろうく）なれども神通（じんとう）。宛然仙人（わんぜんせんじん）。以（い）く。日ごと教誦致（じゅう）焉。倦（うん）こととくして鳥實（とりじつ）。あゝ朝堂（あさひどう）。來の會（くわい）詠（よ）りしよ。檐端（えんばん）に咲（さく）る兩羽の雀。自体（じたい）くろれ蒙家求（もうけう）の口膳（くわんせん）。とくとく聆（き）えときねど。うみくあやし。勸學院（けんがくいん）みく雀（わく）は蒙家求（もうけう）の實方（じかう）のきを雀（わく）化（か）一都（いつく）。あつて。うみくあやし。うみくあやし。吉兆（よしとき）凶示（きょうし）欵（くわん）。議論區（ぎりんく）すく。帝（てい）奏せんと罵（ののき）あつ。師（し）のくすふや。さはる置品（おきひん）といひそ。これ寢の雀（わく）みくあじとく。紙隔（しきつ）が轉啓（てんけい）。師（し）把揚（ぱよう）く熟（じゆく）く看（み）りひ。の機闇（きぐん）せり。山林備（さんりんび）をあれば識（しき）よとて。侍者（じわざ）よ令て。うの館（うのやかた）もちよられば。小野漢志和（おのかんしひわ）をむく。諸（あら）へ詣（まい）てふ漢志和（かんしひわ）。矢田部（やたべ）にあじした。文学（ぶんがく）にかよひ。師（し）のやすこられば。經（きよ）りて。うつて。師（し）が辯（べん）を。昨那雀（さとなわく）採（う）て。おこま

そく。の鳥へ足下れ戯も巧くやと向ゆ。斧もおわせの。ま生
ひづきも遼と日れ学じふ倦屈あらん慰ん。下官が巧作たる
さす。故を師の脚掌に觸て赤面のいきりと笑ふ。師完示してのまく。
足づみ割割ひまくに余人の遠ぶさんあうじ。身の奇が得づれり。
あうじとくへども未歎所ふりて。野納よ一箇は神術あり。どくと傳授す今
一層れ妙を得べ。まふども隨意なうんとあり。れば。漢志和叩首て。
とハ怪有れ。まくけなまくうりせられ。まふとぞをうち妙。下官に傳授す
一あうじば。まよきと滿悦まうんと。あまがくふ観たる。師との懃情を觀
まうじ。よしば理外れ故に室中もく廻んとく。隱察ふほひ。縞よ教役
秘密れ咒文代もまづけまひ。漢志和は究よようこび。まことに師の神変
ひこう。よし。ひこう。秘密へ言語道所ちうとう。まゆに九隣み雀の懷中まで退散

。まも漢志和の館にうつ。皇君に幼學を度ゆく。ありしあるの。舞
譚去まへべ。うれ喜あ。業うれとのま。漢志和をひ。下官とひう
とあれ。希有品が得て。みをまか。勞んとく。ま。一双の雀。いき
か再刀須て。秘咒が唱。大虚にむすみて放一やまく。あひてのう。皇君と
よ。ま中のまく何と送ふ。陸譚。隠意。まく菓子。めどまみて。稍光景を
うつそにかひ。まえ空中より。件せ。雙は雀。喙。まく。翔。まく。皇君吃と
みまく。まふ。まん。嘴。まく。前ま。壺の圍に墜す。ま
まく。まく。天。陵。まく。轉。まく。飛去。まく。皇君ふよ様に。まく。墜
まく。まく。あが。まく。短き劍。まく。まく。まく。小囊。まく。まく。まく
まく。まく。產。御劍。まく。まく。おどろ。と。闇。家。まく。まく。まく。まく。まく
まく。且。惟。まく。驚。まく。怡。まく。まく。別。松。人。山。吹。奇。異。の。まく。

とひ。年は急足の踏所あひごをとび。岑守卿も喜悅をもひ。團つどへて
歩く。びから館にかゝること。全く漢志和の功勳いんくんをもと。勤めり。と
よろぶと涯は。尊君のこすますや。足下分ふと。妙手うる。賢様
ふ龍くよそに妙めうえらむたり。げふ周北楊王のえらひ。偃師が巧
ももせ。教うはこぞ。廢けいりふ。よく守能しゆのう。舍みは。ある。胡倉鹿ことうしか
雀の鳴きわきわ。呑の駄だ。訝あひて。自ら倉廩くらみ。声を教導きょうしゅ。不到ふとう。豈
ちうりんや馬六祖まろくそ七等しちとう。鴨塘おいたん。偷探うとう。御劍ごけんの囊ぬい。紐ひも
て。裡うち。よろ飛と。二羽にわの雀劍きわくせん。嘴くちばて翁おきな。その形勢けいせいに。這奇也。何条なんじょうたく
へそへそ。騰と。抽ひ。もせひて。打聰とうのう。極きわて。高翔たかかけ。と。ゆゑ。畏おそて。囚とら。そ
それ。と早はや。とか。は爵ふくわく。羅ら。あづべ。楊宝ようぼう。慣なれ。り。菊きく。食く。さん。れ。定じ。城じ。眺なが
憫ま。従き。う。あく。と。他。不漏ふろう。と。さう。す。だ。う。ふ。ね。ハ。黙だら。一。て。うそ。へ。轡わ。され

却説松人紛失の脚太刀本にかづく。年頃の望足のぞもなけと。のぶ郎のぶろう。首筋くび山吹
公ごを得て妻め。男子出生おとこ。這一子いっし。寒さむ。瘦やせ。弱よわ。て。松人の名威めい威。ゆづく。忠勝ただかつ
号くわし。小野家ののいえ。めくへ二代だい目の松人まつにん。あり。慈麿じまく。且よ。階弘仁こうこうにん。十四年じゅうよんねん。とづく。
帝嵯峨だいさがの離宮りきゅう。うはづ。せひ。上皇じょうりょうと称めいして。あつ。脚位くわい。大伴おおとも
皇子ごんじゆ。漢和帝かんわていの御事ごじ。にく。西院さいいんの帝てい。すゆ。相武あいぶ
皇子ごんじゆ。帝てい。東三の皇子とうさん。すく。と。神かみ。第だい房ぼう。に。禪ぜん。あり。と。天長てんじょう元年げんねん
改元かいげん。この。どん。尊皇君そんこうくん。巡まわ。察さつ。使つか。正五位下じょうごいしや。御史中ごしゆちゆう。すよ。住す。せざ。と。け。ま。で。
令れい。追お。う。も。他の。尊敬けんけい。輕ひるぎ。と。じ。う。ふ。う。あ。う。れ。ふ。或。年春ひるみ。の。す。日。も
麗うつく。あれ。ば。と。く。軒馬山くわんばさんの。蓬櫻ほうりん。そ。し。と。尊皇君そんこうくん。漢志和かんしほ。と。兩個脚ふたかくわい。供あえ
松人忠勝ちゆうしょう。急角きくく。う。壯そう。美うつく。と。ば。そ。の。餘の。唯いづ。と。か。ふ。乘馬じゆま。率ひき。せ。も。よ
せ。も。よ。く。逍遙じょうりゆ。一。路。次程口號じきゆう。と。く。

着野展敷紅錦繡當天遊織碧羅綾 豊卿



うそひとせらへく。ひびとふきてこれば。つねふゑふ風を。漢志和君
わどもく那辺ナリ。あひ本堂毘沙門天。拝一もひて

玉磬聲思管絃奏。衲衣僧代綺羅人。

皇卿

明鏡乍開隨境照。白雲不著下山來。

全

ヤマベタツ
山凹の平均ナリ。モ擅あまて。五器取止。敵違一て。曉ふと。遊

戯あり。又皇卿へ酒氣脩環一坐。孤獨催馬樂。して山奥

れ多くゆき。漢志和顧り。舍見へり。づくゆき。ゆくゆく。セヨヘト

りゆく。扈從せら。御但。手。と。りひつ。ア多りて。せら。忠勝余の下

部。又。酒宴。居。皇卿。獨言。左氏。又。卿。王命。ゆく。

と。ぐ境。起。そ。り。い。や。い。う。そ。遠。く。ゆ。く。ふ。と。徐。飄。然。渴。櫻。

ヒ爛漫たる。眺み。溪の流。あし。しふ。木。壘。み。河。み。に。山。べ
人。あ。う。げ。う。何。漢。す。ん。と。九。折。扈。從。雄。手。以。申。セ。下。ゆ。卿。ハ。り。
魁梧。徒。頌。と。が。れ。太。六。尺。二。寸。の。大。膽。み。く。本。朝。に。事。要。と。ほ。う。七。種。武。藝。
閑。密。小。銀。鍊。一。身。玉。み。勝。る。武。夫。す。ね。が。か。う。以。げ。さ。き。場。に。佐。一。の。人。
あ。く。ふ。り。か。肩。と。も。ア。ひ。ど。扈。從。ハ。り。や。う。と。セ。り。と。ひ。く。ど。着。よ。く。漢。
河。の。岸。へ。出。き。老。松。芽。く。乎。て。こ。れ。山。の。巣。藤。龍。樹。間。孤。透。く。み。な。く。べ。
三。四。個。の。う。の。面。口。嘴。も。く。又。鼻。高。く。眼。光。り。ぬ。に。鷹。青。の。も。異。一。は。長。絹。枯。
袴。す。み。の。穴。穿。す。く。ハ。袴。往。み。ど。せ。ら。へ。と。訝。ふ。か。の。的。侶。や。ま。立。坐。立。
て。り。ふ。や。し。の。幽。谷。深。林。に。ま。く。じ。ハ。何。漢。す。ぎ。吾。们。の。栖。い。看。忍。し。ま。で。る。
活。く。か。く。ば。じ。く。く。お。の。く。白。又。晃。く。卿。お。砍。く。か。く。扈。從。ハ。お。ど。う。き。御。佩。
せ。く。抛。捨。狼。唄。疾。足。り。逃。去。と。ん。と。て。路。よ。ま。よ。ひ。貴。船。の。う。へ。趨。く。

卿ハすじにも騒ありと。たよ又向ひりきふ奴と。まくそてもせび、伐て入。卿も
せむすく拔合を。上下堅横四個。敵方。捷術。妙手。自在の動。雷光。燐。激
尖くも難をふれく。畏ぞてや。巖陰あひひ林原茂の間。は隱す。ま
りのと追まづふ。いつゝ。まうまう目隠の。包一一秒。打往え。脊け。まへ耳。一
左り。眼へ入る。まく。おりひもよ。じね群。す。縫。左左不投掛。拂ん
と。まく。指貫縫。と。咲。と。卿を曳倒し。以前。れ悪棍。出。あへば。兩個
も。まく。多勢。が。襲。累々。と。劍。集。ひ。肱。手。高く。鄉。り。金
刎て。谷川へ。蹴飛。しま。ご。剣術修練の大膽でも。縉紳の油斷。みとみ。鷹計ふ
て。一時に。よう。う。と。び。く。剣術修練の大膽でも。縉紳の油斷。みとみ。鷹計ふ
て。主は。と。仕裸。セ。顔。卿ハ。術。まく。然。まき。ひ。那们成熟。タ。み。ま。ひ。ま。假面
被。まく。めつ。中。まく。面の脱。まく。众。あ。う。で。桀。喜。の。皇。が。首。や。刎。吃。や
刺。ん。と。既に危く。みえ。まく。と。まく。よ。まく。よ。始終。孤窺。僧。生。まく。まく。

向ふ。何ゆ。卿は殺害。さも。汝们。の爲。詠。首領。的。てり。吾们。へる。山ふ。栖天狗。う。され。武智。に誇。し。他派。度慢。ゆる。誠ん。とも。報。害。と。が。僧。喙々。と。打。呪。議。懲。し。み。弑。と。く。は。魅。首。大よ。愈。賣。主。坊。主。の。ち。く。く。き。ん。鳴。呑。面。倒。り。と。突。倒。し。蹴。と。や。が。脚。弱。く。眩。暉。て。嘔。ど。臥。ま。と。一。個。拳。ふ。わ。づ。く。摸。ん。と。と。と。バ。麻。木。て。团。咽喉。梵。よ。あ。じ。忠。勝。へ。喘。ど。き。き。う。り。て。こ。の。光。景。向。答。ゆ。も。相。よ。び。す。惡。棍。ぶ。虜。に。せ。ん。と。血。氣。比。雄。辛。多。勢。が。あ。つ。て。ふ。團。う。し。僧。の。脚。の。御。辯。太。方。を。も。佩。セ。勲。り。て。貢。船。れ。き。と。誘。ひ。ゆ。く。そ。に。ま。く。小。聖。ま。か。の。山。安。貴。は。ま。く。き。船。一。往。一。願。賽。解。あ。か。く。が。途。中。御。れ。扈。徒。失。血。色。て。帶。き。ま。う。端。す。あ。く。い。ま。く。へ。郷。へ。天。狗。ふ。捕。と。済。り。く。と。放。す。ま。く。せ。よ。か。る。よ。に。れ。ど。ろ。き。山。次。は。鞍。馬。の。く。く。走。じ。ぐ。僧。に。但。ひ。皇。卿。士。李。々。ハ。

とあくよろし。脚僧ハひのうれ。佛方すねだ。たゞ死が救ひなへる。
再生の恩言。諉め絶まと。籍臥てのまゝハ。野被ハ一所不往の名埋的。う
この女房に遇とん。詰もどもとゆもし。辛のどういきり。相
再會公期せん。がくと。称奉あり。すて貴船のかへゆきふ。ふと縁
の僧。くるとおぼへつ。山吹り。こうひ苛して。詰へぐくりきふ。すて守熊
波門。そん。今日皇の鞍馬逍遙密に賸出。黨川誘引。山奥にて他不漏
殺害せんと面々匿。は忠勝と火花。かくし。戦ふ間。脱く。假面。汝は
波門。すく。ぞやとげよ天狗。北守熊。祀文とまく。雲霧をおに。竟
く。あくが。まく。せけり。すて。もかわく。の謀。あく。まく。じて。隠使。う。ど。なき
あく。まく。こ。の。う。と。鞍馬。と。狗賓。の。まく。と。言觸。と。まく。憂名。立。まく。
う。まく。程徑。と。皇卿。達識。の離官。まく。むく。ひしに。別當。ふく。御多喜。

えんち巡察使。よりて武田。皆制。まく。おあく。ねども。うの。ゑ。文官。に。あく。
う。武官。の。まく。寝。も。すと。劍戟。が。まく。空。ほ。あく。まく。ど。く。べ。まく。うの
和成。得。す。れ。まく。院宣。あ。り。け。まく。と。坂。は。まく。う。鞍馬。は。騒動。まく。や。まく
ト。り。の。まく。ん。と。恐。入。く。退殿。まく。ふ。そ。まく。ら。は。世。公慶。し。専。ら。他。と。争。ふ
く。まく。慎。まく。が。まく。賢。う。れ。性。まく。け。く。渾。て。高。お。も。儀。お。お。の。まく。
好。む。まく。う。ば。う。く。だ。の。げ。く。禍。まく。よ。く。准。南。子。に。も。書。ま。寔。まく。

○第十六回 うさん院

お。す。と。魚。水。み。通。ふ。く。よ。其。躰。順。ま。と。ば。り。う。お。す。と。鳥。ハ。風。に。逆。ふ。て。飛。
ま。羽。順。ま。れ。ば。う。り。儻。鳥。水。風。に。順。ふ。と。た。へ。ま。躰。羽。に。逆。ふ。う。り。お
ゆ。急。ふ。逆。ハ。順。あ。く。順。ま。と。バ。逆。く。逆。ま。ん。う。理。人。み。と。途。し。忠。孝。
家。業。お。に。勤。て。氣。張。ら。せ。弛。や。ま。と。と。れ。疾。も。自。ら。あ。う。と。風。水。

乃懶^{あきら}よ達^たふがおも。身を逸^{いつ}脱^{だつ}せ爲業^{めごと}りゆく。心弛^{ゆき}めの病^びが起^{おき}る。肇^あ制^{せい}がり^ある。困苦^{うんく}に生^うじ安樂^{あんらう}か死^死とりしもととぞ。傍^{そば}もろみ。淳^{じゅん}和^わ帝^{てい}天長五年。唐^{とう}使^し大理寺^{たいりじ}少^{すくな}僧^{そう}にて。勅^{てつ}く檢非違使^{けんひついし}の聽^きくとぞ。名^なあみ。皇卿^{こうけい}ハ巡察^{さく}せ間^まあく。身^みもようく。文筆^{ぶんひつ}に堪^{こな}す。大起居^{だいきじ}郎^{ろう}は職^{しょく}公^{ぐう}も兼^{あわ}りして。政事^{せいじ}に昇進^{しょうしん}あらう。清香^{きよ}前^{まへ}安座^{あんざ}をも。男^{おとこ}もされば。俊生君^{しゆじゆ}と称^{めい}して。うの寵愛^{ちうわい}斜^きなづく。家^{いえ}も身^みも、皇卿^{こうけい}の脇^{わき}にあらう。安堵^{あんと}れたり。ひに心弛^{ゆき}と勞^{なぐ}しめや。うの翌年^{いよい}の秋^{あき}より病着^{びき}り。罹^{なま}たまふ。婢^{めい}ら神^{かみ}の上^うも清^{きよ}白^{はく}比例^{ひり}り。寝堂^{ねどう}へもどして。家尊母公^{うぶ}ともおほじころの癰瘍^{じゆろう}も。國家^{こな}の配^{あて}ふばくうは。龍中^{りゆうちゆう}皇卿^{こうけい}の至^{いた}く孝順^{こうくん}よ。身^みをばく夜^よも通^とし。寝食^{ねしょく}忘^わ却^ぜて。看^か病^びす。くらゆ^{くらゆ}と自^じみ。おなづかふ。その二をりそ。醫師^{ひじ}の病論^{ひりん}はりす。更^かす。藥^{くすり}も手^て自^じ剪^き。

身^みひ。脚^あ食^くみは甘^{あま}饒^{うる}あ^より。烹^く羹^ご也^は加減^{かげん}にゆくまで。他^{ほか}も委^ま化^かと奔走^{はん}し。うづうづ鬚^{ひげ}ひ顎^{ひげ}修^{しゆ}鑿^く。鐵^{てつ}漿^{じょう}の元^{もと}は五^ご品^{ひん}我^わ病^い。床^ゆをうごくとも攜^えひ。汚穢^い執^{つか}ぬ。假^あみも奴婢^{めい}れまと借^{うけ}み。永^{なが}心^{こころ}もふこと頭^{かしら}然^{ぜん}のどし。生^う平^{ひら}孝^{こう}養^{よう}も。なりひやられて。有^うくよ^う卿^{けい}也^は清香^{きよ}前^{まへ}漢志味^{かんしび}溢^{あふ}草^{くさ}を^をの看病^うも。輕易^{軽^{けい}易^い}も^うと。萱^{あわ}卿^{けい}の身^み深^{ふか}い。命^{めい}も縮^くまふかとゆでふええ。うづうづ^{うづ}が^が卿^{けい}忠^{ちゆう}功^{こう}拔^{ばく}群^{ぐん}うづうづ^{うづ}。近^{ちか}江^え義^ぎ濃^{のう}下^し野^の薩^{さつ}奥^{おく}多^た刺^し史^{じし}よ任^{あた}す。位階^{いきかい}も參議^{さんぎ}にうづく薨^{こう}去^く。うづうづ^{うづ}。皇卿^{こうけい}の愁^う傷^{けい}祓^ほのまむ井^い水^{みず}をうづ。うづ。それおげとゆきうづひ。拂^はの上^うりす。怠^だりん。日^ひ増^ふに衰^へたまひ

まく如月は空敷をり。皇御ハ泣悉ひ。いふにま。二十一日。腸がれ
や截ふ。玉櫛角づ。親より不芦墻せ。すぢう憂ふ。遇ふ。宿世
の報ひ銚す。夜日。りゆく打破き。眶腫。と泣廢け。いま。小豆み
く。道世。不。や。れり。せど。又。おり。ひ。返。て。おとみ。あふ
あらそ。透世。かく。手車。あま。ば。まづ。う。き。れ。ね。あ。る。五。ま。う。か
かく。そ。う。べ。と。う。も。向。ね。ば。す。毎。没。よ。葬。り。百。日。北。法。延。千。部。北。燒。經。最。も
く。狼。濃。よ。ま。か。り。あ。ふ。ぐ。と。よ。う。二。載。が。あ。ひ。ご。殊。嚴。に。龍。ア。テ。喪。解。喪。
あ。火。祭。て。同。火。あ。ま。す。す。焦。殼。て。骨。立。の。や。く。に。き。り。き。ふ。す。よ。皇。御。ハ。泣。ま。れ。ま
人。も。ま。れ。て。か。く。通。途。の。お。よ。づ。み。孝。子。に。た。わ。し。そ。ん。文。書。ア。ド。そ。ざ。り。ん
口。情。こ。ふ。し。ち。う。う。ー

小野篁八十鳴かげ巻之五終

